令和7年産　大島地域 無加温マンゴー栽培暦

令和7年1月作成

月	旬	生育相	栽培管理 主要管理	栽培管理 水管理	栽培管理上の注意	防除方法 対象病害虫	防除方法 防除薬剤と希釈倍数
8	中 下		整枝・せん定 施肥 天井除去	適湿 新梢充実のために十分なかん水を行う	□一斉にせん定を実施する □天井除去後はネット被覆管理（台風対策）	【収穫終了後】 炭そ病 ハダニ類 ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ かいよう病	ｵｰﾂｻｲﾄﾞ水和剤80　600倍 ﾊｰﾍﾞｽﾄｵｲﾙ 混用　100倍 ﾓｽﾋﾟﾗﾝ顆粒水溶剤　2,000倍 ICﾎﾞﾙﾄﾞｰ66D　40倍
9	上 中 下	新梢伸長期	葉面散布 新梢の整理 有機物マルチング		□迅速な発芽・伸長確保のため窒素主体の葉面散布を行う □肥料成分含量の低い素材でのマルチングで酷暑時期の土壌表層の保湿に備える	ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ ﾄﾞｸｶﾞ類	ｷﾗｯﾌﾟﾌﾛｱﾌﾞﾙ　2,000倍 ﾛﾑﾀﾞﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ　2,000倍 （使用回数２回以内）
１０	上 中 下		枝葉の整理		□未充実部分の程度で摘葉または芽かきのいずれかの処理を行う	炭そ病 ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類 かいよう病	ｼﾞﾏﾝﾀﾞｲｾﾝ水和剤　800倍 ﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾑﾌﾛｱﾌﾞﾙ　2,000倍 ICﾎﾞﾙﾄﾞｰ66D　40倍
１１	上 中 下	花芽分化期	誘引 補正せん定	節水 極度の乾燥を避けてかん水を行う	□過密すぎる箇所の枝を制限する	ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ ﾊﾀﾞﾆ類	ｺﾃﾂﾌﾛｱﾌﾞﾙ　2,000倍 ｻﾝﾏｲﾄ水和剤　1,000倍
１２	上 中 下					かいよう病	ICﾎﾞﾙﾄﾞｰ66D　40倍
1	上 中 下	萌芽期 出蕾期	天井被覆 ﾂﾏ・ｻｲﾄﾞ被覆 受粉昆虫準備	湿潤 晴天日の午前中にかん水して過湿を避ける	□ビニル被覆以降はハウス内が過度な高温とならないよう換気に努める	炭そ病 【被覆直後】 炭そ病	ｱﾐｽﾀｰ10ﾌﾛｱﾌﾞﾙ　1,000倍 （落ち葉や枝等の除去を徹底） ﾍﾞﾙｸｰﾄ水和剤　1,000倍
2	上 中 下	花穂伸長期	混合花の摘葉 摘房・整形 施肥			ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ	ｶｽｹｰﾄﾞ乳剤 混用　2,000倍 ｽﾋﾟﾉｴｰｽ顆粒水和剤　5,000倍
3	上 中 下	開花始期 開花盛期	受粉昆虫放飼 花穂吊り		□ハウスの換気は十分行って過湿を防ぐ一方で24℃前後を極力保つ	軸腐病 灰色かび病	ｽﾐﾚｯｸｽ水和剤　1,000倍 ﾛﾌﾞﾗｰﾙ水和剤　1,000倍
4	上 中 下	生理落果期 果実肥大期	粗摘果･玉吊り	適湿 果実肥大と増糖を進めるために適宜かん水を行って保湿を保つ	□花穂，果実の吊り上げは極端に引き上げ過ぎないように留意する	ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類幼虫 炭そ病	ｺﾙﾄ顆粒水和剤　2,000倍 ｱﾌﾟﾛｰﾄﾞﾌﾛｱﾌﾞﾙ　1,000倍 ｾｲﾋﾞｱｰﾌﾛｱﾌﾞﾙ20　1,000倍
5	上 中 下		仕上げ摘果 施肥 日焼け対策		□開花盛期30～40日後を目安に最終着果量に仕上げる □内ネット被覆や紙傘などで日焼けを防ぐ	ﾊﾀﾞﾆ類	ｶﾈﾏｲﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ　1,000倍
6							
7	上 中 下	成熟期	ネット掛け 台風対策 収穫・調製 ↓				

★収穫後は，１年に１回土壌分析を行いましょう！

農薬使用基準を遵守して安心・安全な果実生産に努めよう！

基幹防除･･･発生を抑えるため，できるだけ防除に努めましょう。
補完防除･･･発生状況をみながら，必要に応じて防除しましょう。

令和6年11月28日現在の登録内容を記載

［耕種的防除による病害虫発生軽減対策］

- ●通気性を良好に保つために，過密な樹相を解消する
- ●換気を行い，ハウス内の温湿度を適正に維持する
- ●ハウス内外の除草など，環境整備に努める
- ●果実肥大期の発生新梢は，芽かきして園外に持ち出す
- ●発病枝やせん定枝など，病害虫発生源は園外に持ち出す

［施肥時期と施用量］

施肥時期	肥料の種類	10a当たり収量 1.0t	1.5t	2.0t
8月中旬	奄美果樹配合	100kg	110kg	125kg
2月上旬	または	60kg	65kg	75kg
5月上旬	蜜のめぐみ２号	40kg	45kg	50kg
年間窒素成分量（kg）		16	18	20

鹿児島県園芸振興協議会大島支部

【連絡先】大島支庁農林水産部農政普及課　0997-57-7274
（同）瀬戸内町駐在　0997-72-0184
（同）喜界町駐在　0997-65-3019

令和７年産 大島地域 無加温マンゴー栽培暦（天敵製剤利用版）

令和7年1月作成

月	旬	生育相	栽培管理 主要管理	栽培管理 水管理	栽培管理上の注意	防除方法 対象病害虫	防除方法 防除薬剤と希釈倍数
8	中 下		整枝・せん定 施肥 天井除去	適湿 新梢充実のために十分なかん水を行う	□一斉にせん定を実施する □天井除去後はネット被覆管理（台風対策）	【収穫終了後】 炭そ病 ハダニ類 チャノキイロアザミウマ かいよう病	オーソサイド水和剤80 600倍 ハーベストオイル 混用 100倍 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 ICボルド-66D 40倍
9	上 中 下	新梢伸長期	葉面散布 新梢の整理 有機物マルチング		□迅速な発芽・伸長確保のため窒素主体の葉面散布を行う □肥料成分含量の低い素材でのマルチングで酷暑時期の土壌表層の保湿に備える	チャノキイロアザミウマ ドクガ類	キラップフロアブル 2,000倍 ロムダンフロアブル 2,000倍 （使用回数２回以内）
１０	上 中 下		枝葉の整理		□未充実部分の程度で摘葉または芽かきのいずれかの処理を行う	炭そ病 カイガラムシ類 かいよう病	ジマンダイセン水和剤 800倍 トランスフォームフロアブル 2,000倍 ICボルド-66D 40倍
１１	上 中 下	花芽分化期	誘引 補正せん定	節水 極度の乾燥を避けてかん水を行う	□過密すぎる箇所の枝を制限する	チャノキイロアザミウマ ハダニ類	コテツフロアブル 2,000倍 サンマイト水和剤 1,000倍
１２	上 中 下					かいよう病	ICボルド-66D 40倍
1	上 中 下	萌芽期 出蕾期	天井被覆 ツマ・サイド被覆 受粉昆虫準備	湿潤 晴天日の午前中にかん水して過湿を避ける	□ビニル被覆以降はハウス内が過度な高温とならないよう換気に努める	炭そ病 【被覆直後】 炭そ病	アミスター10フロアブル 1,000倍 （落ち葉や枝等の除去を徹底） ベルクート水和剤 1,000倍
2	上 中 下	花穂伸長期	混合花の摘葉 摘房・整形 施肥			チャノキイロアザミウマ	カスケード乳剤 混用 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 【2週間以上あける】
3	上 中 下	開花始期 開花盛期	受粉昆虫放飼 花穂吊り		□ハウスの換気は十分行って過湿を防ぐ一方で24℃前後を極力保つ	チャノキイロアザミウマ 軸腐病 灰色かび病	天敵製剤設置（下記※部分参照） スミレックス水和剤 1,000倍 ロブラール水和剤 1,000倍
4	上 中 下	生理落果期 果実肥大期	粗摘果･玉吊り	適湿 果実肥大と増糖を進めるために適宜かん水を行って保湿を保つ	□花穂，果実の吊り上げは極端に引き上げ過ぎないように留意する	カイガラムシ類幼虫 炭そ病	アプロードフロアブル 1,000倍 セイビアーフロアブル20 1,000倍
5	上 中 下		仕上げ摘果 施肥 日焼け対策		□開花盛期30～40日後を目安に最終着果量に仕上げる □内ネット被覆や紙傘などで日焼けを防ぐ	ハダニ類 チャノキイロアザミウマ	カネマイトフロアブル 1,000倍 コルト顆粒水和剤 2,000倍
6							
7	上 中 下	成熟期	ネット掛け 台風対策 収穫・調製				

農薬使用基準を遵守して安心・安全な果実生産に努めよう！

★収穫後は，１年に１回土壌分析を行いましょう！

※スワルスキープラスUM（1～4パック／樹）
但し，ハダニ類発生も憂慮される場合は以下を同時放飼とする
→ スパイカルプラス（1～5パック／樹）
【詳細は，奄美版天敵利用マニュアルを参照】

基幹防除･･･発生を抑えるため，できるだけ防除に努めましょう。
補完防除･･･発生状況をみながら，必要に応じて防除しましょう。

令和6年11月28日現在の登録内容を記載

［耕種的防除による病害虫発生軽減対策］

- ●通気性を良好に保つために，過密な樹相を解消する
- ●換気を行い，ハウス内の温湿度を適正に維持する
- ●ハウス内外の除草など，環境整備に努める
- ●果実肥大期の発生新梢は，芽かきして園外に持ち出す
- ●発病枝やせん定枝など，病害虫発生源は園外に持ち出す

［施肥時期と施用量］

施肥時期	肥料の種類	10a当たり収量 1.0t	1.5t	2.0t
8月中旬	奄美果樹配合	100kg	110kg	125kg
2月上旬	または	60kg	65kg	75kg
5月上旬	蜜のめぐみ２号	40kg	45kg	50kg
年間窒素成分量（kg）		16	18	20

鹿児島県園芸振興協議会大島支部

【連絡先】大島支庁農林水産部農政普及課 0997-57-7274
（同）瀬戸内町駐在 0997-72-0184
（同）喜界町駐在 0997-65-3019